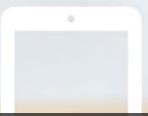




“クラウド” と “オンプレミス” の 良いとこ取り

オンプレミスVDIでも “サブスク” ?



VDIに限らず、ITインフラの導入に際して『クラウドサービスの利用』と『オンプレミス環境での構築・運用』を比較することは一般的になりました。でもそれぞれ一長一短があるのも事実。

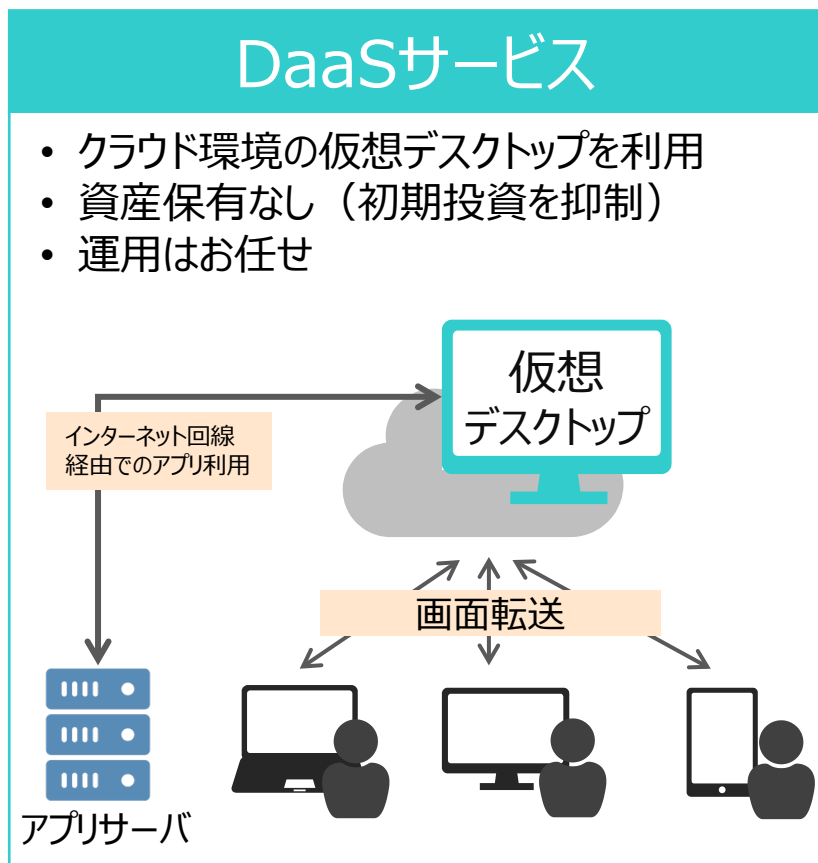
第三の選択肢として、オンプレミス環境でクラウドライクなVDIを実現する方法をご紹介します。

内容

1. DaaSサービスの良いところ、残念なところ
2. オンプレミスVDIの良いところ、残念なところ
3. 第三の選択肢：オンプレミス + クラウドサービス
 - 3-1. クラウドのような、オンプレミスVDI（コスト）
 - 3-2. クラウドのような、オンプレミスVDI（拡張性）
 - 3-3. クラウドのような、オンプレミスVDI（運用）
4. 従量課金制インフラの導入事例

1. DaaSサービスの良いところ、残念なところ

DaaS (Desktop as a Service) は、VDIを利用するクラウドサービスです。他のクラウドサービス同様、サービス利用ならではのメリット・デメリットがあります。



- 初期費用が抑制できる
- 短期間での利用開始が可能
- 運用はお任せで、手間いらず



ちょっと残念。

- カスタマイズ性が低い
- 契約制限が多い（拘束期間、最小契約数）※
- アプリサーバがオンプレに多い場合の通信懸念



※ マイクロソフト社のライセンス規約として、複数企業の仮想デスクトップをサーバに同居させることを認めていないため、マイクロソフト社のWVD (Windows Desktop Services) 以外の多くのDaaSサービスは契約にあたり制約事項があります。

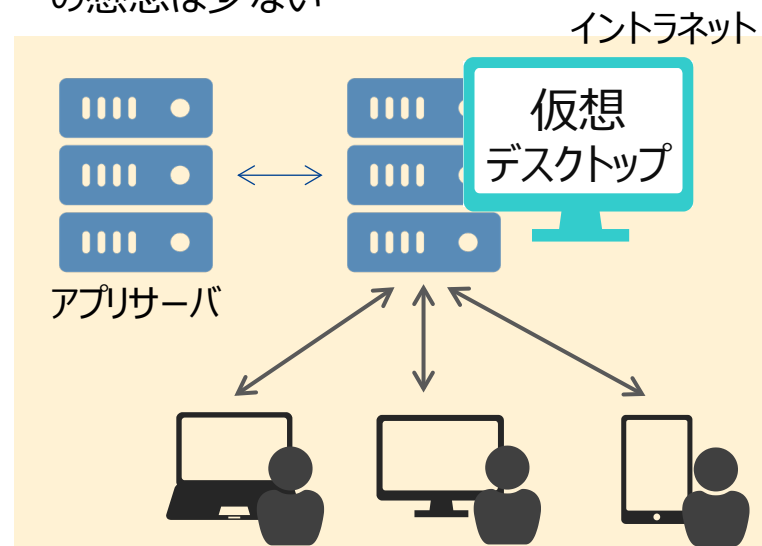
2. オンプレミスVDIの良いところ、残念なところ

オンプレミス環境にVDIを構築する場合、**自社に最適なVDI環境を整備**できます。

半面、**自社資産を保有するため初期投資が大きく、将来の環境変化にも弱い場合**もあります。

オンプレミス環境VDI

- 自社に最適なVDIを構築
- 自社で運用
- アプリサーバがイントラ内の場合、通信量の懸念は少ない



いいね！

- 自社に最適な環境
- 他社に依存せず、自社運用
- 長期利用時のコストメリット

ちょっと残念。

- 初期投資費用が大きい
- 環境変化への柔軟性に欠ける場合がある
- 最新機能を使うには、バージョンアップ作業が必要

3. 第三の選択肢：オンプレミス + クラウドサービス

オンプレミスに設置しながらクラウドのような利用ができるサーバ、
オンプレミスに設置しながら、クラウドでVDIを管理・運用できるサービスを組合せ、
オンプレミスとクラウドサービスの“良いとこ取り”をするという選択もあります。

オンプレミス+クラウド

- クラウドサービスとして提供されるVDIの管理サービスを利用
- ユーザが利用するVDI実行環境はオンプレミス
- オンプレミスのサーバでも、クラウドのような支払い方法、拡張性の確保（HPE GreenLakeサービス）

注目ポイント！



クラウドでVDIを一元管理
代表的なサービス例
CITRIX® Cloud

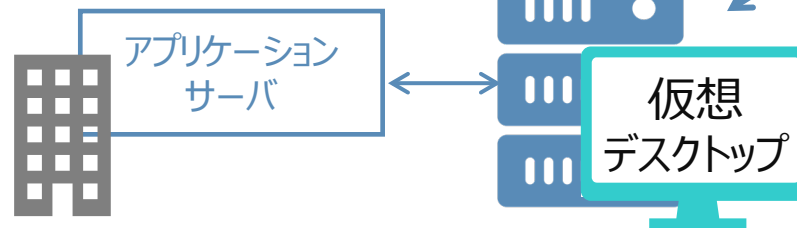


インターネット

注目ポイント！



イントラネット



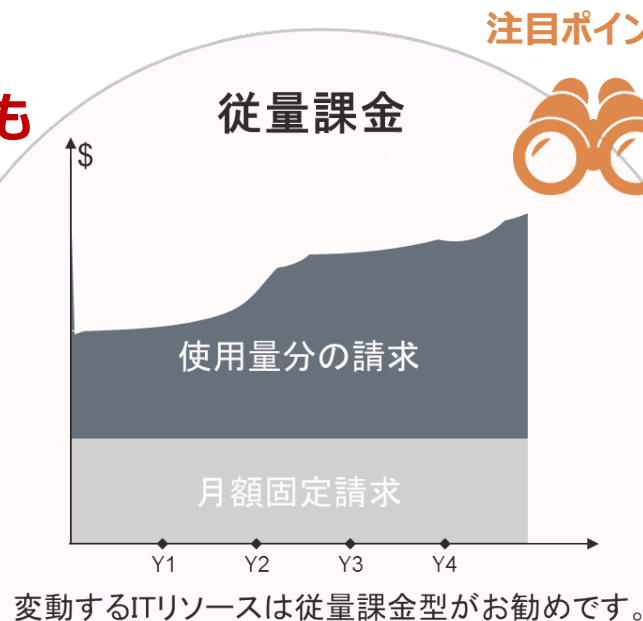
【HPE GreenLakeサービス】

- ハードウェアの利用費用をクラウドのように使った分を支払う従量課金制
- 予備リソースをコスト負担なく準備し、クラウドのような拡張性を確保

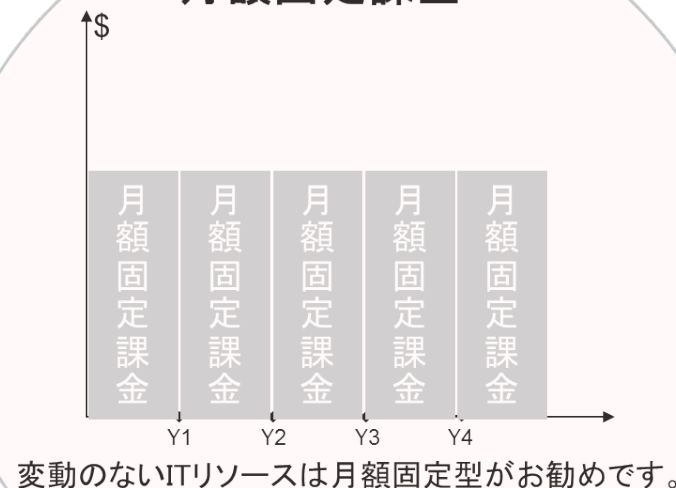
3-1. クラウドのような、オンプレミスVDI（コスト）

HPE GreenLake Flex Capacityを利用すると、**オンプレミス環境に設置してもクラウドのような従量課金でハードウェア費用利用が可能**。初期投資を抑えたミニマムスタートも容易。

**オンプレミスでも
“サブスク”**



月額固定課金



Servers

- サーバ単位、仮想マシン単位(compute unit)、物理コア単位

Storage

- GB単位（使用した容量。Writeしたrowデータ）

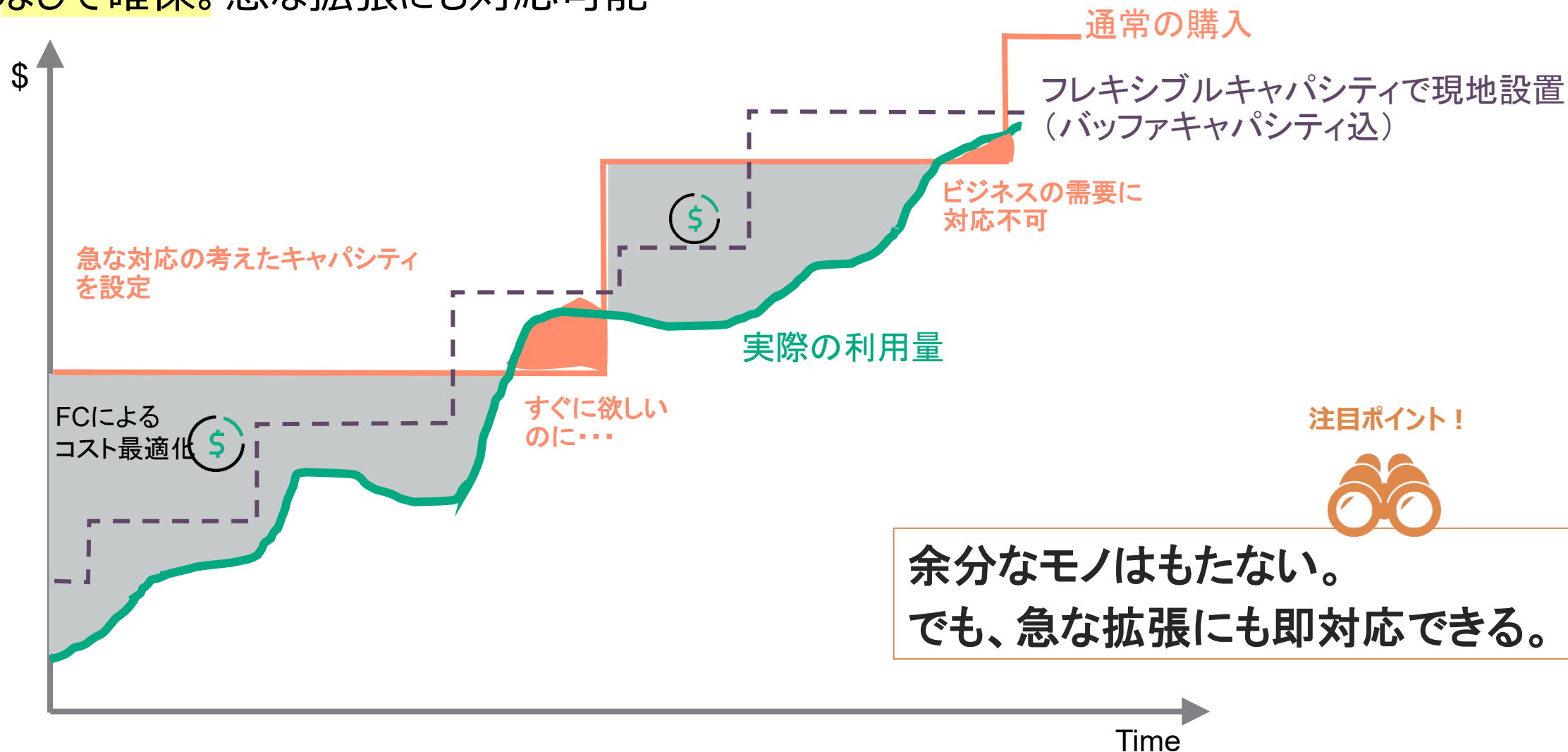
SAN

- ポート単位

ビジネスの変化に合わせて
課金形態の途中変更も可能です。
(組合せの運用もご提案可能です)

3-2. クラウドのような、オンプレミスVDI（拡張性）

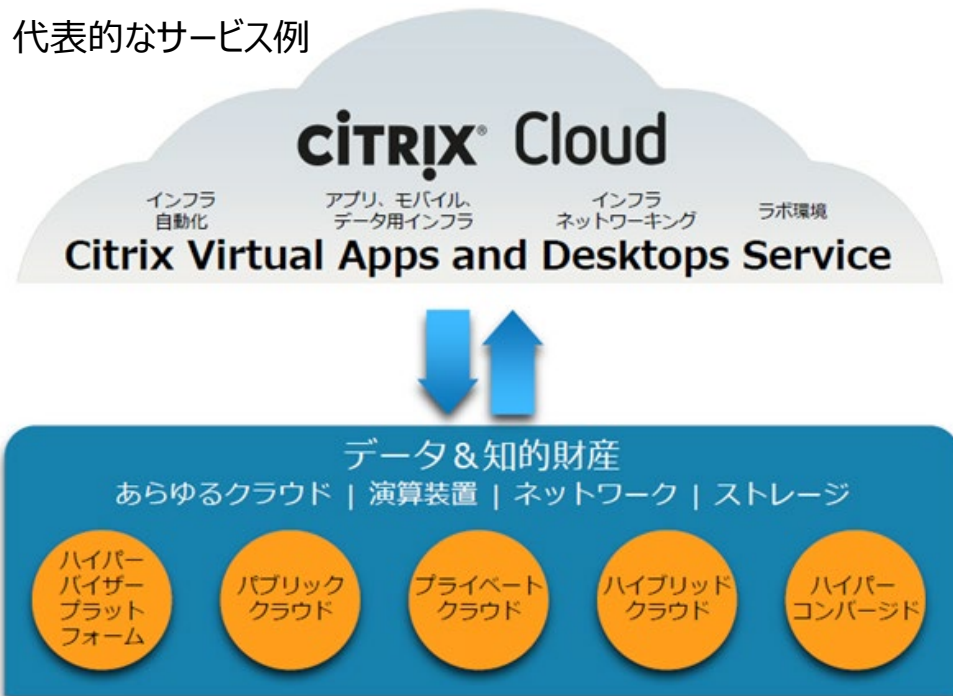
HPE GreenLake Flex Capacityでは、**将来の拡張を見越した予備リソースを費用負担なしで確保**。急な拡張にも対応可能



3-3. クラウドのような、オンプレミスVDI（運用）

複雑なVDIの管理機能は、サービスを利用することで専門的なVDI運用経験が無くても常に最新の機能を安定して利用することが可能。システム利用までの準備期間も短縮

代表的なサービス例



管理はクラウド側（Citrixが運用）

- ・専門的なシステム管理が不要
- ・自動アップデート
- ・短納期でのシステム導入が可能

VDI実行環境はどこでもOK ※

- ・VDIの実行環境をオンプレミスに設置
- ・データは、イントラネット内
- ・社内サーバとの通信もイントラネット内

注目ポイント！



- ※ クラウド環境に、VDI実行環境を設置することも可能です。
 ※ 最初はオンプレミスで利用し、クラウド環境で稼働する社内サーバが増えたときに、VDI実行環境をクラウド環境に移行するという進め方もできます。

4. 従量課金制インフラの導入事例

私たちも、従量課金制の『HPE GreenLake フレックスキャパシティ』を使っています！



Hewlett Packard Enterprise

Case Study

パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社が、ハイパーコンバージドインフラと従量課金サービスを採用し、全てにおいて柔軟なVDIサービス基盤を構築

HPE SimpliVity 380 Gen10によるインフラの柔軟性とHPE GreenLake フレックスキャパシティによるコストの柔軟性を実現



“プロジェクトの当初から、今回構築するVDI基盤を弊社のサービスに拡張することを考えていましたが、そのためにはより速く運用ナレッジを蓄積し、同時に高い品質とシンプルな運用管理性を担保することが必要でした。これら要件を満たすHCI製品が、HPE SimpliVity 380 Gen10でした”

—パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社
エンタープライズソリューション事業部
クラウド・運用サービス部
西日本インフラソリューションチーム
千川 寛 氏



目的

サービスをご提供するお客様のネットワーク環境分離が要件にあり、利用者の増減にも柔軟に対応できるVDIサービス基盤を構築する。併せてこれまで固定費化していたIT投資コストの平準化を図り、さらなるサービス私利に向けてHPE SimpliVity 380 Gen10の適用ノウハウを蓄積する。

アプローチ

基盤ベースでハイパフォーマンス、さらに柔軟な拡張性と運用負荷の軽減を可能にするHCI製品を採用。また投資の平準化に向けて、オンプレミス環境を月額従量課金制で利用できるサービスを選択。

ITの効果

- 高いパフォーマンスと耐障害性を兼ね備えたエンタープライズ向けHCI製品のHPE SimpliVity 380 Gen10を採用し、シンプルかつ柔軟なVDIサービス基盤を実現
- HPE SimpliVity 380 Gen10の採用で各スペースも楽観し、お客様のデータセンターコストの軽減にも貢献
- HPE GreenLake フレックスキャパシティの採用で、オンプレミス環境を「クラウドライク」に従量課金制で利用可能に
- HPE GreenLake フレックスキャパシティにアドインされたHPE アークセンターケアの利用で、運用負荷の軽減と品質向上を実現

ビジネスの効果

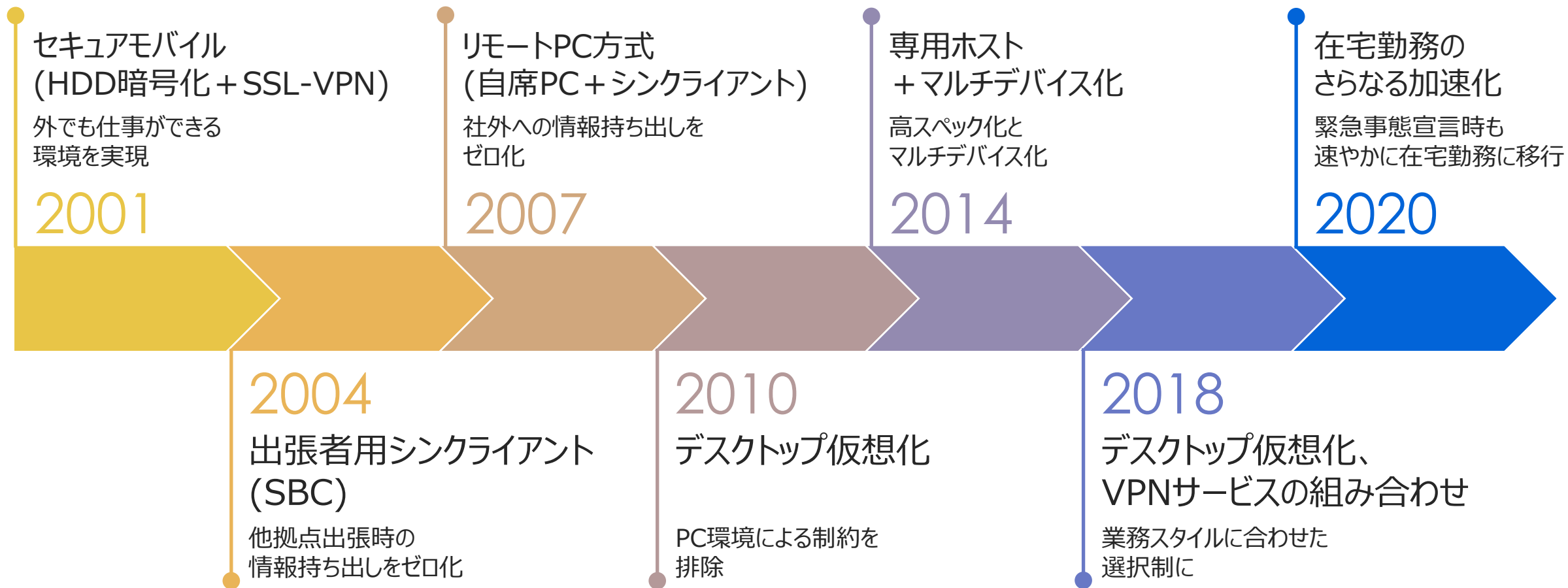
- HCI製品の採用により、利用者の急激な増減にも、迅速かつ柔軟に対応することが可能に
- 今回構築したVDIサービス基盤をベースモデルとして、柔軟な拡張デスクトップアプリケーションのサービスを拡張
- HPE GreenLake フレックスキャパシティの採用によりサービス基盤への投資コスト平準化に成功

事例の詳細は、こちらから



<https://www.hpe.com/jp/ja/customer-case-studies/servers-simplivity-panasonic-is.html>

パナソニックISは、ユーザ起点で考え、マルチベンダーでお客様に最適なお提案ができる、ユーザー系システムインテグレータです。



VDIシステムに関するあらゆる疑問にお答えする「オンライン無料個別相談」を実施しています。「とにかくVDIについて聞いてみたい」という方も、経験豊富なSEが承りますので、お気軽にご相談ください。



お問い合わせはこちら

お問い合わせ先

パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社

E-mail : sales-pisc@ml.jp.panasonic.com



※本資料に記載された社名および商品名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。